

**原子力システム研究開発事業
事後評価総合所見**

研究課題名：小型モジュール炉の社会実装を支援する社会総合リスク情報基盤 研究代表者（研究機関名）：澁谷 忠弘（横浜国立大学） 研究期間及び研究費：令和4年度～令和6年度（3年計画） 44百万円		
項 目	要 約	
1. 研究の概要	<p>社会受容性の獲得がボトルネック課題となっている小型モジュール炉（Small Modular Reactor:SMR）のような新型炉に対して、リスク分析に必要な各種情報を整理するとともに、社会リスク構造に基づくシナリオベースの定性的なリスク評価技術を高度化することを目指す。トラブル情報に代表される内的事象、自然災害やテロ等の外的事象に加えて、社会の変化に起因した情報等も適切に考慮したシナリオベースのリスク評価手法を開発する。社会におけるエネルギーシステムの総合評価手法の確立のため、社会の重要インフラとしての視点から判断に必要なリスク評価指標を明らかにするとともに適切な分析、評価を実施するためのガイダンスを確立させる。提案したリスク情報基盤と社会総合リスクアプローチを小型モジュール炉へ試行して、その有効性、客観性を確認することを目的として、以下の研究開発を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1）SMR評価に必要なリスク情報の収集と整理 2）社会総合リスクを考慮した包括的なシナリオ想定と影響予測手法の開発 3）SMRに対する社会総合リスク評価の試行 	
2. 総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後のエネルギー問題を議論するため、小型モジュール炉（SMR）を中心にリスク指標を整理し、リスク評価の試行を行ったことは評価できる。 ・ 一方で、この成果をどのように活用していくかについては、検討を続けていく必要がある。 <p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>